

令和4年度地域と市長のまちづくり懇談会 大清水校区

開催年度回次	令和4年度第27回	開催月日	2月26日	開催校区	大清水校区	開催場所	南稜地区市民館
議題				市の回答			
<p>大清水校区は、「市の立地適正化」において市南部地域の拠点となる豊橋鉄道渥美線大清水駅があります。また居住誘導地域の富士見台一・二・三丁目および野依台一・二丁目に隣接しています。さらに、民間による宅地造成は、ひばりタウン26戸(完成)、ひばりヒルズ134戸(戸完成居住)、富士見台一丁目74戸(造成中)がすすんでいます。</p> <p>校区内は、市の窓口センターや図書館等の公共施設、県立高校と市立小学校、私立幼稚園等の教育施設、大規模店舗等の商業施設32軒、医療施設16軒、金融機関4軒、福祉施設8軒と居住環境が整っています。さらに、地勢条件は台地で、土砂災害・河川氾濫災害の危険性が低いほか、海拔11～35mで地盤も安定しており、液状化等の危険性も低いことなどから、災害にも強い地域です。</p> <p>大清水駅を拠点とする地域は、上述の住環境の良さから居住および移住の需要が高いです。これは、宅地価格が周辺土地より高いことに表れています。</p> <p>これらをふまえたうえで、1～3の議題を要望します。</p>				<p>道路維持課</p> <p>(1)</p> <p>ご連絡いただきました箇所につきましては、道路排水を円滑に処理するため、蓋のないタイプの側溝が現在設置されております。</p> <p>通学路等でもあり、道路幅員の確保の観点から、令和5年度に大清水神社前、令和6年度から大清水小学校正門前から県道へ向かう道路について順次、蓋の設置が可能な側溝へ布設替えを行い、蓋の設置を予定しております。</p> <p>23号バイパスへと抜ける迂回路につきましては、通り抜け車両の速度抑制も合わせて通学路の安全を確保する必要がある路線と考えており、今後、路側帯の安全確保について検討していきます。</p> <p>また、側溝がなく水が溜まってしまう箇所につきましては、具体的な箇所を教えていただければ、現場を確認致します。</p>			
<p>1. 住宅地の道路および側溝と通学路の整備について</p>				<p>(2)</p> <p>車道を緑色に着色する通学路カラー標示は、学校の周辺で児童 80人以上が利用する通学路を対象として整備しており、大清水小学校周辺では、既に整備されている状況です。一方で、路側帯(外側線で区切られた歩行者が歩く空間)を青色に着色する路肩カラー標示は、通学路であれば、通学児童数によらず交通量などの状況に応じて整備していますので、具体的な箇所を教えていただければ、小学校や教育委員会とともに整備を検討します。</p>			
<p>(1)道路の側溝の蓋の完備、路側帯の整備</p> <p>すでに市へ要望はしていますが、大清水神社前、大清水小学校正門前から県道へ向かう道路の側溝の蓋の完備、23号バイパスへと抜ける迂回路の路側帯などを整備してほしいです。その他、側溝がなく水が溜まってしまう地域もあるので、全体的な整備も進めてほしいです。</p>							
<p>(2)通学路の整備</p> <p>現在、学校周辺の通学路にだけ緑色のスクールゾーンが敷かれているので、少し離れた通学路にも同様に整備してほしいです。</p>							

開催年度回次	令和4年度第27回	開催月日	2月26日	開催校区	大清水校区	開催場所	南稜地区市民館
議題				市の回答			
<p>2. 大清水駅周辺のインフラ整備の課題について</p> <p>(1)大清水駅前の東西の道路の幅が狭いため、駅の送迎車や定期バスが道路に停車してしまうと、歩行者や車両の安全な通行ができません。道路を拡幅し、歩道を新設、送迎者のスペース確保、定期バス乗降場所の確保をお願いします。</p> <p>(2) (1)を可能にするためにも、駅から南進している道路が一部民地であるので、すべてを市道として管理・整備してほしいです。(地権者は分筆登記済みであり、市への移管も同意済みです。南高校南校舎へ通う生徒の通学路にもなっています。)</p> <p>(3)線路北側の住民は、線路南側にまわりこまなければ電車に乗降できません。大清水駅南側の混雑緩和も含め、線路北側にホームの出入口を設けてほしいです。</p>				<p>土木管理課</p> <p>(1) (2)</p> <p>大清水駅前道路の送迎車による混雑緩和は、豊橋鉄道によって有料駐車場の最初15分間を無料にするなど、対応を行っていただいている状況です。また、道路の拡幅等の対応は新たな用地取得が伴うため難しいと認識しております。</p> <p>民地の道路を市が管理・整備をするためには、市道として寄付していただく必要があります。現在運用している要綱では、側溝や舗装など基準を満たす整備をした道路について用地及び道路構造物を市で受取り、その後の管理を市で行っていくものとなっております。</p> <p>都市交通課</p> <p>(3)</p> <p>豊橋鉄道に確認したところ、線路北側のホームに出入口を設けた場合、改札口の設置に伴い改札設置や駐輪場整備などの施設改修等に多額の費用がかかるということです。また、利用者が多い大清水駅では新たな駅員の配置が必要となるということです。</p> <p>このようなことから対応は難しいと伺っておりますが、本市としましては、大清水駅の利便性向上を踏まえ豊橋鉄道に働きかけを行っていきたいと考えております。</p>			

開催年度回次	令和4年度第27回	開催月日	2月26日	開催校区	大清水校区	開催場所	南稜地区市民館
議題				市の回答			
<h3>3. 野依台上藤ヶ谷公園の整備について</h3> <ul style="list-style-type: none"> 公園は、市民の憩いの場です。さらに、公園の環境によっては学習の場ともなります。そこで、公園の環境整備において、年々成長する草木の管理は毎年実施するべきと考えますが、どのようにお考えでしょうか。 公園の除草は例年実施されていると承知していますが、雑木の伐採と植栽樹木の剪定の実施状況を教えてください。 公園環境維持に関わる市の予算配分は、当該公園の過去25年間の整備状況を見る限り十分とは思えませんが、どのように把握されていますか。 市の予算編成において、公園の環境維持管理に関わる必要な予算計上がされていますか。 校区自治会では当該公園を、 「校区の重要で最大の公園であり、大勢の人々が集う場所にしたい」 「災害時の避難場所として適した場所にしたい」 「緑のアダプト制度に登録して地域で細々と雑木の伐採をしています、憩うにはほど遠い荒れた公園」と認識していますが、市では、当該公園をどのように位置づけていますか。また、その現況はどう把握されていますか。 				<h3>公園緑地課</h3> <ul style="list-style-type: none"> 草については公園を利用するために毎年除草することが必要であると考えており、樹木については、種類(樹木の大きさや成長の速さ)など必要に応じて定期的な管理を行うことが理想であると考えています。 豊橋市の公園広場は586あり、樹木は約40万本あります。毎年多くの樹木の剪定や伐採の要望をいただいている中で、緊急性・安全性を最優先に順次対応しており、この野依台上藤ヶ谷公園については、年間数件対応しております。 公園の維持管理費は人件費の高騰や、開発行為に伴う公園数の増加、樹木の大木化や老木化が進んでおり、年々増加傾向にあります。そのようななか、優先順位をつけて維持管理を実施しております。今後は維持管理コストのかからない樹木へ切り替えるなど量から質への転換を図っていく必要があると考えております。 公園全体予算の内約6割を維持管理に計上して、維持管理に力を入れております。 当該公園は、樹木が多い自然景観を大切にする風致公園と位置付けられているほか、防災上は一時避難場所などに指定されています。 これまで、大清水小学校の50周年記念で子供たちがロウバイを植栽し、継続して関わっていただいているところですが、公園が広く樹木も多いことから、自治会による公園管理や、緑のアダプト制度に登録したボランティアの皆様による雑木の除去を行っていただき、多くの方が関わっていただいている貴重な公園と考えております。 			

・校区自治会としては、例として以下のような公園にしていきたいです。

- ・公園駐車場を東西2か所にしたい(現在は西側1か所)
- ・木々を生かした自然公園にしたい
- ・池を埋め立てて広場にしたい(水路は確保)
- ・池の周りのフェンスを撤去したい
- ・現在のしょうぶ園を廃止し、しょうぶ園を移設したい

・公園の利用状況によっては公園駐車場の整備を進めることや既存の木々を生かした自然公園の整備について、地元と協議しながら進めることは可能と考えております。また、しょうぶ園の移設については、同規模のものは、スペースの面から難しい状況ですが、これまでどおり地元が維持管理を行い、小規模なものとする場合は、地元と協議しながら進めることは可能と考えております。

一方で、池下流は西の川(梅田川)となっており、梅田川浸水想定区域では現状でも多数浸水区域があり、池の埋め立てについては、近年大雨が多く、集中豪雨時の水路のさらなる氾濫が懸念されることから、防災上難しい状況です。フェンスについても、池で死亡事故が懸念されることから難しい状況です。

実施できることは限られますが、行政だけで整備を進めていくことは難しいことから、今後、ボランティア活動などを通じて地域と一体となることで、よりよい環境整備が進められると考えています。